県境中山間地域における越境連携・交流の実態に関する調査報告

Report on Survey of Cross-border Cooperation and Exchange of Border Region

暁　敏（内蒙古大学）
Xiao Min（Inner Mongolia University）
小川勇樹（愛知大学）
Ogawa Yuki（Aichi University）
黍嶋久好（愛知大学）
Kibishima Hisayoshi（Aichi University）

要旨：　本報告では、三遠南信地域の中山間に位置する自治体を対象に行った聞き取り調査で分かった越境した連携・交流の実態と連携の課題を明らかにしている。また、長年にわたって県境中山間自治体の連携を担ってきた「愛知・長野県境域開発協議会」について、設立の背景から現在までの活動及び果たした役割を調査した結果、山村づくりのための小さな活動の拠点機能をもつ公的な地域づくり機関として機能していることが分かった。

キーワード：三遠南信地域、中山間地域、越境連携、地域間交流、県境域開発協議会

１．はじめに

（1）研究の背景と目的

愛知県・長野県・静岡県の県境地域の自治体で構成される三遠南信地域では、これまで県境を越えた交流や連携した取り組みが行われてきた。特に、県境中山間地域の小規模自治体では共通課題を有しており、行政界を越えて共通課題に対して連携して取り組み課題解決を図っている。このような課題解決はもちろんのこと三遠南信地域は都市部と中山間部を併せ持つ地域であることから都市と中山間の交流を契機とした人脈形成や新規ビジネス開拓など新たな創発も期待できる。

以上の背景のもとに、本研究では三遠南信地域の中山間に位置する自治体の越境した連携・交流の実態を把握することを目的に県境中山間自治体を対象に聞き取り調査を実施した。

（2）研究の方法

県境中山間地域の連携・交流の実態を把握するために、県境中山間地域の自治体に聞き取り調査を実施した。聞き取り調査では、連携・交流活動の主体や活動の概要及びその効果等について尋ねた。

聞き取り調査は三遠南信地域の県境中山間に位置する自治体を対象とし、長野県４町村、静岡県浜松市天竜区、愛知県２町に実施した。静岡県浜松市は合併以前の中山間地域である旧水窪町、旧佐久間町（現天竜区）を対象として天竜区役所、水窪協働センター、佐久間協働センターに聞き取りを実施した（表1）。聞き取り調査の結果は、活動内容で分類を行い整理した。

その中で長年にわたって県境中山間自治体の連携を担ってきた「愛知･長野県境域開発協議会」について、設立の背景から現在までの活動及び果たした役割等について詳細を調査した。

表１　聞き取り調査の実施概要

	第１回聞き取り調査	第２回聞き取り調査
実施日	平成26年1月16～17日	平成26年3月25～27日
対象	【長野県】根羽村、売木村、阿南町、天龍村	【静岡県】浜松市天竜区（旧水窪町、旧佐久間町） 【愛知県】東栄町、設楽町

２．三遠南信地域の県境中山間地域における連携・交流の現状と課題

（1）県境中山間地域における連携・交流の現状

聞き取り調査で分かった三遠南信地域における県境中山間地域の連携・交流の現状を表２にまとめた。その連携・交流活動の内容を分類すると主に以下のような形態が見られる。

１）流域中心の交流

長野県根羽村と愛知県西三河都市部では矢作川流域地域で越境した交流がある。その他にも愛知県東三河地域では中山間部の設楽町と都市部との豊川水系を中心とした流域地域の交流等がある。

２）スポーツ・イベントの交流

スポーツ・イベントの交流は多く、浜松市水窪で開催される静岡県浜松市と長野県飯田市による「峠の国盗り綱引き合戦」は有名である。他にも天龍村の「天龍梅花駅伝」、阿南町新野地区の「新野千石平ロードレース」には､県外から多くの参加者が訪れる。また、長野・愛知県境では県境を越えたトレイルマラソン大

表２　県境中山間地域における連携・交流の概要

ヒアリング先	越境した連携・交流	分野	実施主体	概要	効果や課題
天龍村	天龍梅花駅伝	スポーツ・イベント	天龍村	2014年で46回目。毎年応募者が多く今年は143チーム参加予定。参加チームには愛知県、静岡県から参加するチームも多い。	駅伝を通じて各地域の人とつながりが生まれた。
天龍村	天龍村村営温泉施設「おきよめの湯」の温泉水の利用	スポーツ・イベント	MESふるさと応援隊	村が所有しているタンクローリーで温泉を運ぶ。タンクローリーは、温泉の宣伝ということでガソリン代のみで貸し出している。 豊橋の桜丘高校の文化祭やジャスコ豊橋南店でイベント時に足湯を設置。豊橋総合動植物公園「のんほいパーク」では常設している。サービスエリアで「きき足湯」イベントを実施。 おきよめの湯は、県外からの利用者も多い。天龍村と阿南町では両自治体が保持する温泉施設（阿南町は「かじかの湯」）で使える保養券を住民に配布している。	持続的な事業になるようにするのが今後の課題。 効果としては茶臼山への観光客が増加した。
天龍村	日本大学との交流	教育・住民団体・NPOの交流	天龍村 日本大学生物資源科学部森林資源科学科	日本大学藤沢キャンパスの文化祭に天龍村の物産品を送って学生が販売して天龍村をPRしていた。売り上げは天龍村に送られていた。	学生の卒業などで途切れてしまうため、継続的な大学との連携が課題。
天龍村	県境域での婚活イベント	スポーツ・イベント	地域おこし協力隊	地域おこし協力隊が企画した婚活イベント。	
天龍村	ななめに暮らす数日	スポーツ・イベント	地域おこし協力隊	田舎生活体験ツアー。参加者は全国（特に名古屋）からくる。地域おこし協力隊のメンバーが全国をヒッチハイクで被り物をかぶって宣伝等行った。	
阿南町	阿南町と田原市との友好提携による小学生中心の交流	教育・住民団体・NPOの交流	阿南町、田原市	昭和54年6月、阿南町長が渥美町を訪れ、“海と山の町”としての交流を提案し、その後、広報紙や町勢要覧の交換、議会議員・職員の交流会等を経て、昭和59年12月6日に友好提携。小学校交流では、「山」の小学生に「海」を体験してもらおうと、阿南町の小学生を田原市の小学校が受け入れ、地引網や貝殻拾いなど、海ならではの交歓会などを行っている。	
阿南町	道の駅物産交流	スポーツ・イベント	阿南町、田原市	田原市内の道の駅「田原めっくんはうす」と阿南町内の道の駅「信州新野千石平」で、互いの特産品の交換販売を行っている。	
阿南町	愛知県弥富市との交流（予定）	地縁・血縁の交流	阿南町、弥富市	弥富市鍋田開拓地に開拓者として移住した阿南町出身者との交流。ふるさと意識があり、新野地区との交流が盛んで、主に同級生のつながり。最近では、教育委員会を中心とする学校交流を実施している。	
阿南町	新野千石平ロードレース	スポーツ・イベント	阿南町新野地区	地区の人たちが地区活性化を目的に始めたのがはじまり。毎年6月の第1日曜日に実施、日本各地からの参加者。2002年に第1回開催、昨年2012年は第12回大会。参加者は年々増加しており、昨年は1314人参加。第1回（2002年）は607人、第2回（2003年）は700人。口コミで増加。景品の地元野菜が人気。参加賞として1人1品はもらえる。	景品は後日郵送のものもあり、御礼のやりとりや野菜の取り寄せ等の交流や繋がりが生まれている。
売木村	売木米そだて隊	スポーツ・イベント	売木村	平成21年から実施。年7回のイベントで全イベント参加者にはうるぎ米をプレゼントする。名古屋、刈谷、豊橋などから参加する。	このイベントをきっかけに売木村で別荘を購入して定住。
売木村	根羽村と豊根村と連携してトレイルマラソン（21km）を構想中	スポーツ・イベント	売木村、根羽村、豊根村	売木村はマラソンや競歩、トライアスロンの選手が合宿で訪れている。そのためコースに距離を表示するなど整備しており、現在はクロスカントリーコースの整備を進めている。	
売木村	山村留学	教育・住民団体・NPOの交流	売木村	昭和58年（1983年）から実施、現在まで352名が参加。その後、売木村に戻ってきた人はいない。平成24年から役場が主体となって実施。将来、マラソン好きな子供を山村留学とリンクして実施したい。	参加者で売木村に戻ってきた人はいない。
売木村	田舎暮らしすすめ塾	教育・住民団体・NPOの交流	売木村移住者	売木村に移住してきた移住者が提案して実施。	
売木村	愛知県吉良町との交流	スポーツ・イベント	売木村、吉良町	夏に吉良町の人々がソフトボールをするために売木村に来ており、売木村のチームが対戦相手をしていたことがはじまり（20年以上前）。現在も売木村の秋色感謝祭で吉良町が海産物を販売。	次の世代でもつながりが維持できるかが課題である。
売木村	農村民泊	教育・住民団体・NPOの交流	売木村	毎年、武蔵野市立第四中学校（東京都）の中学1年生が訪れている。	
根羽村	大学との連携	教育・住民団体・NPOの交流	根羽村	信州大学、名古屋大学、岐阜女子大学が、弁当（商品名：根羽のはこいり娘）と弁当箱の提案（2006年度から連携事業）。東京大学の演習林がある。	
根羽村	長野県根羽村と西三河都市部との矢作川流域地域を中心とした交流	流域中心の交流	矢作川沿岸水質保全対策協議会	1969年発足。1978年根羽村と愛知県一色町の交流（一色町が根羽村の子供たちを潮干狩りに招待）。1979年根羽村加入。矢作川における民間主導の水質保全活動は「矢作川方式」として有名	
根羽村	矢作川水源の森分収育林事業	流域中心の交流	根羽村、安城市	安城市と根羽村で森林整備協定を締結	
根羽村	こどもぐるぐるゼミナール	流域中心の交流	根羽村、安城市	安城市で小学校の環境学習で使用されている教材。根羽村のことが記載されている。	
根羽村	自動車部品メーカー企業（愛知県）との連携	スポーツ・イベント	根羽村、企業（愛知県）	森林の里親制度。年3～4回環境学習を実施。	社員やその家族との交流が生まれる。
根羽村	プロスポーツチーム（愛知県）との交流	スポーツ・イベント	根羽村、プロスポーツチーム（愛知県）	豊田スタジアムで根羽村の商品を販売（ネバーランド）。最終試合など根羽村の子供たちを招待。	
根羽村	旅行会社（愛知県）と連携	スポーツ・イベント	根羽村、旅行会社（愛知県）	平成17年に連携。親子体験学習ツアーなど実施。ツアーのお弁当などすべて根羽のものを使用。	
浜松市水窪	峠の国盗り綱引き合戦	スポーツ・イベント	浜松市、飯田市	長野県は飯田市南信濃、静岡県は浜松市水窪町の両商工会の青年部から精鋭が選出され、3本勝負を行なって勝った方が1メートル、相手側に「国境」を広げることができる。	知名度アップに繋がっている。
浜松市水窪	北遠駅伝大会	スポーツ・イベント	浜松市	浜松市内からの参加者が多い。水窪にある企業等の関係で東京都からの参加もある。	
浜松市佐久間	浜松市佐久間と豊根村富山小学校との交流	教育・住民団体・NPOの交流	浜松市、豊根村	城西小学校と富山小学校との交流は、集合学習、合同授業や体育など。1999年からから毎年2回開催している。	
浜松市佐久間	三遠南信ふるさと歌舞伎交流	文化的交流	三遠南信ふるさと歌舞伎交流実行委員会	南信州、東三河、遠州の3エリア歌舞伎保存会の持ち回りで、毎年ふるさと歌舞伎の交流大会を開催。	
浜松市佐久間	花の舞を通じた東栄町との交流	文化的交流	浜松市佐久間		
東栄町	盆踊りを通じた交流	文化的交流	東栄町		
東栄町	東京花祭(東栄町御園地区との交流)	文化的交流	御園花祭保存会、東京花祭り実行委員会	東京花祭は、東京民族舞踊教育研究会や北多摩民族舞踊教育研究会と御園花祭保存会との交流の中から、東京でも花祭を受け継ごうと1993年に始まった。11月の御園花祭には東久留米市から20名程度が訪れ、笛や舞に参加。	
東栄町	三遠南信地域住民ネットワーク協議会	教育・住民団体・NPOの交流	三遠南信地域住民ネットワーク協議会	三遠南信地域内で活動するNPO、住民団体やグループまたは個人が、相互で交流・連携し新しい事業展開の可能性を探る。また、三遠南信地域連携推進ビジョン会議(SENA)をはじめとする地域の行政機関や経済団体など諸国体と連携して三遠南信地域づくりを実現するために、2012年6月に設立。	東三河の団体としては,他地区へ交流に出かける取組を行っている。
設楽町	愛知県設楽町と東三河都市部の豊川水系流域地域の交流	流域中心の交流	設楽町	豊川水系を中心に、豊橋、豊川、田原、蒲郡との交流が中心で、主に区単位で交流。	

会の構想や長野県根羽村と愛知県のプロスポーツチームの交流等がある。

３）教育・住民団体・NPO の交流

教育機関や住民団体、NPO 団体等の交流もある。例えば、長野県阿南町と愛知県田原市は友好提携による小学生中心の交流を実施しており、静岡県浜松市佐久間と豊根村富山小学校（愛知県）も交流がある。また、三遠南信地域の住民団体が連携する「三遠南信地域住民ネットワーク協議会」もある。

４）地縁・血縁の交流

地縁や血縁関係による交流もあり、具体的には、長野県阿南町と愛知県弥富市では弥富市在住の阿南町出身者との交流を予定している。また、長野県阿南町新野地区と愛知県豊根村、長野県天龍村と愛知県豊根村では親戚関係による交流があることが分かった。

５）文化的交流

祭りなどを通じた文化的交流としては、三遠南信地域の「祭り街道」事業をはじめ、東栄町では盆踊りを通じた他地域との交流、愛知県設楽町と静岡県浜松市佐久間では歌舞伎を通じた交流が行われている。

６）町村越境連携

三遠南信地域には自治体・経済団体・住民団体間の連携を目的とした三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）がある。その他に、県境中山間では自治体間

の越境連携を目的として長野県阿南町、売木村、天龍村、根羽村、愛知県豊根村で構成される「愛知・長野県境域開発協議会」がある。

以上のように、三遠南信地域の県境中山間では越境した交流・連携活動が行われている。その活動内容は、流域圏自治体間の交流、スポーツ・イベントによる交流、教育・住民団体・NPO 団体の交流、地縁・血縁による交流、祭りや歌舞伎等の伝統的文化に関する文化的交流、協議会を組織して住民交流や連携活動を行っている町村越境連携といった内容があることが把握できた。

(2) 県境中山間地域における連携・交流の課題

聞き取り調査では、越境した連携・交流による効果と課題についても意見が挙がった。越境した連携・交流による効果では、つながりの創出や知名度アップ、移住者の創出等の効果があったことが分かった。どの町村でも、越境的な連携・交流の重要性は認知しており、住民の生活圏が県境を跨いでいるため、交流を重視したいといった意見や中山間地域での連携・交流に加えて都市部との連携・交流に積極的に取り組む必要性を感じているといった意見があった。特に、三遠南信地域内で都市部と中山間部での補完に対する期待がある。

一方で、交流の重要性は認識しているが、具体的な越境連携・交流活動に繋がっていないといった課題や連携・交流活動の継続性の課題、合併によって範囲が拡大し、三遠南信地域内の越境的交流より同自治体内の中山間地域と都市部との交流が優先されている現状があることも分かった。

3．三遠南信地域の越境連携の事例

(1) 自治体間の越境連携

市町村行政における広域行政制度は、1947 年に制定された地方自治法において、一部事務組合制度として創設されたことに始まる。以後、1952 年の地方自治法の改正により、簡便な広域行政制度として「協議会」「機関及び職員の共同設置」「事務の委託」制度が創設された。1974 年の地方自治法の改正では、一部事務組合制度の中で「複合的一部事務組合制度」が設けられた。1994 年の地方自治法の改正で、組合の新しい形でもある「広域連合制度」が設けられている。そして、2014 年 5 月の地方自治法の一部改正で、地方自治体相互間の協力である「連携協約制度」が新たに規定された。その内容は、次のとおりである。

地方自治法の第 252 条の 2 の条文には、「普通地方公共団体は、当該普通地方公共団体及び他の普通地方公共団体の区域における当該普通地方公共団体及び当該他の普通地方公共団体の事務の処理に当たっての当該他の普通地方公共団体との連携を図るため、協議により、当該普通地方公共団体及び当該他の普通地方公共団体が連携して事務を処理するに当たっての基本的な方針及び役割分担を定める協約（以下「連携協約」という。）を当該他の普通地方公共団体と締結することができる」とある。

地方自治体は、他の自治体と連携して事務を処理するにあたっては、基本的な方針、役割、分担を定める連携協約を締結できることになった。この連携協約制度は、単に事務の分担だけではなく政策面での分担も可能であり、新たな広域連携制度の仕組みでもある。

既に、地方自治法では、地方自治体相互間（行政区域・界を越えて）の協力または共同の事務、事業の対応の制度として、「協議会」等の規定があり、地方自治体間の事務・事業処理の仕組みとして運用されている。

地方自治法上の制度としての協力方式には、①地方公共団体の協議会、②機関等の共同設置、③事務の委託、④職員の派遣、⑤公の施設の区域外設置及び共同利用、⑥相互救済事業経営の委託、⑦長及び議長の全国的連合組織等や消防の相互応援（消防組織法）が運用されている。

地方公共団体の協議会の種類（性格）としては、①管理執行協議会、②連絡調整協議会、③計画作成（策定）協議会がある。特別地方公共団体である一部事務組合制度、広域連合制度は、市町村間の協力連携の集合体の機能でもある。

(2) 三遠南信地域での県境を跨ぐ広域協議体の経緯

三遠南信地域での県境（越境）を跨ぐ協議体の設立は、1970 年代に小規模自治体間での連携協議がみられる。1972 年の「三遠地域町村振興連絡協議会（愛知県東栄町・豊根村・富山村、静岡県佐久間町・水窪町）の設立。1977 年の「愛知・長野県境域開発協議会（長野県阿南町・売木村・天龍村、愛知県豊根村・富山村）」の設立がある。現在は、「愛知・長野県境域開発協議会」が組織され活動を行っている。

他方、広域行政は、国の施策として、1969 年に長野県飯田市を中心都市とする「飯伊地域広域行政市町村圏協議会」が、1971 年には愛知県新城市を中心

表３　三遠南信地域の境を越えた協議・連携

設立年	協議体名	構　　成	摘　要
1972(S47)	三遠地域町村振興連絡協議会	愛知県東栄町・豊根村・富山村、静岡県佐久間町・水窪町	連携協力
1976(S51)	県境三圏域交流懇談会	広域行政市町村圏構成市町村	交流連携
1977(S52)	愛知・長野県境域開発協議会	長野県阿南町・売木村・天龍村、愛知県豊根村・富山村	連携協力
1994(H6)	三遠南信サミット	市町村、経済団体、地域住民団体	会議協議
1996(H8)	三遠南信地域交流ネットワーク会議	市町村、経済団体、地域住民団体	連絡調整会議
1997(H9)	三遠南信地域経済開発協議会	経済団体	連絡調整会議
2008(H20)	三遠南信地域連携ビジョン推進会議	市町村、県、商工会議所・商工会	計画作成協議
南信州地区			
1969(S44)	飯伊地域広域行政市町村圏協議会	飯田市、下伊那郡町村(18市町村)	解散移行
1994(H6)	飯伊行政組合	飯田市、下伊那郡町村(18市町村)	解散移行
1999(H11)	南信州広域連合	飯田市、下伊那郡町村(14市町村)	現行組織
奥三河地区			
1971(S46)	新城南北設楽広域市町村圏協議会	新城市、南設楽郡、北設楽郡(9市町村)	解散
1993(H5)	東三河地方拠点都市地域整備推進協議会	東三河市町村、商工会議所・商工会	解散
2007(H19)	東三河広域協議会	東三河市町村、商工会議所・商工会	解散
2015(H27)	東三河広域連合	東三河市町村(8市町村)	現行組織
北遠地区			
1974(S49)	北遠地区広域市町村圏事務組合	天竜市、磐田郡・周智郡(4町村)	解散
2005(H17)	浜松市(政令市)	浜松市(11市町村の編入合併)	合併新市

出典）愛知・長野県境域開発協議会、三遠南信地域連携ビジョン推進会議、飯田市、新城市、豊橋市、浜松市の資料により作成

都市として「新城南北設楽広域市町村圏協議会」が、1974 年には静岡県天竜市を中心都市として「北遠地区広域市町村圏事務組合」が設立された。これら広域行政圏の交流連携を図るために 1976 年には「県境三圏交流懇談会（市町村長・議長）」が発足している。平成の大合併を契機として広域行政制度も協議会から一部事務組合へ、そして広域連合へと移行や市町村合併により政令指定都市への移行等の集中と分散が進み広域行政の仕組みも再編されている。広域行政制度は、事務・事業の共同処理方式であり相互補完機能を持つことでもある。

県境三圏交流懇談会も 2005 年で解散となった。広域行政や手の届く範囲での連携協力（狭域連携）は、他市町村間での補完協力関係を紡ぎだす手段であり、目的は自地域の自立振興にあろう。表３は、三遠南信地域での県境を跨ぐ主な広域協議体の設立、移行、解散の経緯をみたものである。以下で、長年にわたって愛知県と長野県の県境地域で活動を行ってきた「愛知・長野県境域開発協議会」を取り上げて、設立の背景から現在までの活動及び果たした役割等について述べる。

(3) 愛知・長野県境域開発協議会

愛知・長野県境域開発協議会は、1977 年（S52）12 月 9 日に長野県阿南町・売木村・天龍村、愛知県豊根村・富山村(現豊根村)の５町村により結成された。以後、長野県根羽村、愛知県津具村（現設楽町）が加入した。平成の大合併があった 2005 年には、愛知県富山村・津具村が県境域開発協議会を離脱した。図 1 は、2014 年現在の協議会を構成する５町村を示したものである。県境域開発協議会の設立趣意には、「愛知・長野県境域にある町村が、相互協力、交流を通じて、県境地域の開発、振興を図るとともに県境を越え新たな山村づくりをめざすために県境域開発協議会を発足させるものである」とある。

県境域開発協議会を設立した町村に共通することは、地理的には長野県では最南端の地にあり、愛知県では東北端の地にあり県境をもつ町村でもあり、両県域からみれば縁辺部に在る。市町村界と併せて県境界の狭間はあるものの、峠（県境）を越えての住民の交流や生活基盤を確立するために行き交うことの歴史はあった。手の届く範囲での地区住民の相互交流があり行政区画を越境して交流がなされている地域でもある。

県境域開発協議会は、広域行政の一端とも読み取れるが、手の届く範域連携（町村連合的な緩やかなつながり）としての事業の共同と相互補完をおこなっている。以下では、県境域開発協議会の取り組みの背景と経緯をみて行く。表 4 は、県境域開発協議会を構成している町村の住民の動向である。

県境域開発協議会設立の発起人であった故・小林文彦豊根村長は、1977 年 12 月 9 日の設立総会で「協議会は、運動体であり（1）共通テーマの明確化、(2) 住民からみて存在価値のある協議会、(3) 5 町村の主体的、自治的な活動を行う運動体であり、山村が直面している共通課題の解決のために、小さな自治体が連携することで手の届く範域として、新たな山村づくりの協議と運動をめざす」と述べている。山村地域が直

図 1　現在の愛知・長野県境域開発協議会構成町村

表 4　県境域開発協議会構成町村の住民人口の状況

		1975年	2005年	2014年
阿南町	人口	7, 652	5, 924	5, 105
	世帯数	2, 073	2, 215	2, 159
売木村	人口	953	698	601
	世帯数	285	284	280
天龍村	人口	3, 739	3, 002	1, 540
	世帯数	1, 097	830	804
豊根村	人口	2, 044	1, 517	1, 265
	世帯数	577	612	550
根羽村	人口	1, 938	1, 300	1, 028
	世帯数	531	455	416

出典）各町村役場　1975 年は国勢調査、2005 年以後は 4 月 1 日現在の住民基本台帳人口

面している共通課題は、協議会の部会編成にも現れている。

1977 年設立時の協議会の構成は、5 町村長、5 町村議会議長である。協議会には部会が設置され、行政、地域の経済団体、民間事業者、住民団体等が参画している。「道路部会」「防災部会」「医療部会」「後継者対策部会」「農林部会」「商工観光部会」「企業部会」「教育地域文化部会」の 8 部会が編成された。以後、各部会での成果として挙げられることは、「道路部会」では、幹線道路である県境を跨ぐ国道 151 の改良促進事業要望・提言活動（いまだ大型車両通行不能箇所が残る）の継続、「防災部会」では 1978 年 8 月 7 日に県境域消防相互応援協定を締結している。協定の特徴は、応援に出動した場合、一切の費用は援助町村が負担するとある。「医療部会」では、豊根村の歯科医が、阿南町新野地区、売木村に出張診療をする契

表 5　県境域開発協議会の変遷

年	1977年	2014年
構成自治体数	5町村	5町村
構成自治体	長野県：阿南町，売木村，天龍村 愛知県：豊根村，富山村（現豊根村）	長野県：阿南町，売木村，天龍村，根羽村 愛知県：豊根村
参加者	町村長，議会議長	町村長，議会議長，副町村長，教育長
部会	8部会 ・道路部会 ・防災部会 ・医療部会 ・後継者対策部会 ・教育地域文化部会 ・農林部会 ・商工観光部会 ・企業部会	3部会 ・道路交通部会 解散 解散 ・住民交流部会 ・産業振興部会
部会長	町村の課長	副町村長

約が 1978 年 11 月から 10 年間にわたって締結された。歯科医無医地区の解消への対応である。「後継者対策部会」では、青年層の結婚への支援活動であり町村の結婚相談員の配置、青年層の交流会開催がある。「農林部会」では、JA との競合ではなく、新たな農林産品の開発と農林業後継者への支援。「商工観光部会」では、「雪・月・花の祭り」ともいわれ地域に伝承されている「祭り」を新たな観光資源として保存と活用活動（まつりのふるさと PR 版の制作、祭りイベント）、天龍村大河内地区と豊根村間黒地区が、「霜月祭り・花祭り」の奉納交流を行っており小地区での交流が生まれた。「企業部会」では、農村工業導入で 5 町村に立地している企業への支援、従業員相互の交流。「教育地域文化部会」では、住民のスポーツ、文化交流活動がある。協議会の活動として、町村議会議員の研修会、町村役場職員の研修交流会等の活動実績がある。

県境域開発協議会は、発足から 37 年の活動実績をもつ。現在（2014 年）の協議会構成町村は、長野県阿南町・売木村・天龍村・根羽村、愛知県豊根村の 5 町村であり、構成員は、町村長、議会議長、副町村長、教育長が参加している（表 5）。部会は、「道路交通部会」「産業振興部会」「住民交流部会」の 3 部会である。協議会設立時の「防災部会」「医療部会」は体制整備ができたことにより解散。「後継者対策部会」「教育地域文化部会」は、「住民交流部会」に統合。「農林部会」「商工観光部会」「企業部会」は、「産業振興部会」に統合されている。2013 年度の県境域開発協議会の収支決算額は、2,432 千円である。協議会の基本資金は 900 千円であり町村は、均等割 50%、人口割 50% の比率で負担金を拠出している。部会事業等の実施には、長

野県の補助金や協議会の繰越金が充当され運用されている。

2014 年度の部会事業は、「産業振興部会」は愛知・長野県境においでん事業（スタンプラリー、観光キャンペーン、観光・農産物 PR）、「住民交流部会」はスポーツ交流会開催（少年野球、ゲートボール、弓道、ソフトバレー、マレットゴルフ）、文化交流会開催（17 団体の参加）、「道路交通部会」は、愛知県、長野県、関東地方整備局、中部地方整備局、国土交通省、財務省への提言要望活動であった。部会長は、副町村長が務め継続事業活動と地域の新たな課題を取り込んだ活動を展開している。

37 年間にわたり協議会を継続・運用している構成町村は、県境域開発協議会の評価と展望について次のことを挙げている。

A：緩やかな協議と活動ができる自治組織である。国、県行政に対してはインパクトを与えている。

U：自治体の規模は小さいが、共同活動をすることで行政職員を育てたい。

T：協議会がめざしているのは、町村間の利害を調整するのではなく、住民が交流することが主たる目的である。

N：県境域開発協議会を含め地域経営には、協議会方式は多重であることが望ましい。

T：広域的な地域連携の対応も必要であるが、隣り合う身近な町村との共同活動を継続することにも意義がある。

広域行政制度は、町村間の事務・事業の共同処理方式であり、協議会はその一つの仕組みである。県境域開発協議会も呼称として“協議会”を称しているが、発想には 5 町村を一つの自治体とみなし、現行の町村行政区画を範域内の地区として捉え、事業活動を展開している。ここでの協議会の機能・役割は、単なる事務・事業の共同処理ではなくて、山村づくり（住民が暮らす地域づくり、生活の場づくり）のための中間支援機能、シンクタンク機能、NPO 活動の役割等を併せもつ、いわば「小さな活動の拠点機能」をもつ公的な地域づくり機関（運動体）である。県境域開発協議会の設立趣意は、地域の中で実践されている。

4．おわりに

三遠南信地域の中山間に位置する自治体を対象に聞き取り調査を行った結果、越境した連携・交流の実態及び連携の課題等が明らかになった。越境した連携・交流による効果では、つながりの創出や知名度アップ、移住者の創出等の効果があることが分かった。

一方で、交流の重要性は認識しているが、具体的な越境連携・交流活動に繋がっていないといった課題や連携・交流活動の継続性の課題、合併によって範囲が拡大し、三遠南信地域内の越境的交流より同自治体内の中山間地域と都市部との交流が優先されている現状等があることが分かった。

また、長年にわたって三遠南信地域の県境中山間自治体の連携を担ってきた「愛知・長野県境域開発協議会」について、設立の背景から現在までの活動及び果たした役割を調査した結果、県境域開発協議会は、小域での連携であり、地域住民の交流を補完する行政界を越えた主体を形成しており、山村づくりのための小さな活動の拠点機能をもつ公的な地域づくり機関として機能していることが分かった。

参考文献

県境域開発協議会（1977）：県境域開発協議会発足会議

社団法人 地域問題研究所（1977）：上流域山村の研究 - 山村経営を軸にした福祉型社会への創造へ

社団法人 地域問題研究所（1980）：上流域山村の研究 - 山村の新しい定住社会をめざして

愛知大学中部地方産業研究所（2004）：年報・中部の経済と社会 - 特集・三遠南信学の可能性

早川鉦二（1985）：県境を越えた新たな山村づくり - 長野、愛知県境域開発協議会を中途化として、愛知県立大学外国語学部紀要、第 18 号、pp. 1-44.

黍嶋久好（1998）：地域から見た参加と連携の取り組み - 三遠南信地域の実践から、日本地域開発センター、地域開発、4 月号、pp. 28-34.